

平成29年7月6日(木)
全国高校野球選手権秋田県大会壮行会

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

しびれる場面、苦しい時こそが、可能性が拓かれる時

いよいよ、高校球児の夢「甲子園」をめざして、熱くも厳しい戦いが始まろうとしています。どの学校のチームも、夢に向かって、これまでの苦しかった試練の日々を自信に変え、高校球児としての誇りとエネルギーを爆発させます。

スポーツ選手としてのマインド・スピリット、

磨きあげた技術、

鍛え抜いた心身、

そして、予測する力や一瞬の判断、という

これまで培ってきた「心・技・体・知」の全総力を傾け、文字通り、両チームが死力を尽くして戦う大会が始まります。

本校の選手諸君も胸に期するものがあると思いますが、毎試合、試合をコントロールし、本校のペースで試合が展開するとは限りません。競り合い、もつれ、予想がつかなくなるのが、高校スポーツの本質であり、魅力だからです。高校野球は、その典型です。

最後まで、競り合い、もつれ、一瞬も気を抜けない、ふるえるような試合展開になることが、あるかもしれません。図らずも、リードされ、じりじりしながら後半戦を迎えてしまう苦しい試合展開になることが、あるかもしれません。

そんな試合こそ、本校の選手諸君の底力の見せ所です。本校生の秘めた可能性を存分に発揮する試合です。皆さんは、そのための十二分な準備を、これまで行ってきました。

この夏の大会で、一勝することが、どれだけ大変なことか、

たとえミスが出て、励まし合い、チームワークという大きな力へと結晶化する時、

どれだけ勝利への希望となることか、

最後の最後まで、怯まず諦めず戦い抜くことが、どれだけ大切なことか、

選手の皆さんは、知り抜いているはずです。

しびれる場面、苦しい時こそが、可能性が拓かれる時です。

どんなにしびれる場面でも、鍛えた平常心で、澁刺と守り抜き、

どんなにしびれる場面でも、溢れるワクワク感で、しぶとくヒットを放ち、

どんなに苦しい時でも、自分たちの力を信じ抜き、

そして、どんなに苦しい時でも、一球に懸ける、研ぎ澄ました集中力、

流れを変える、一瞬の冷静なプレー、

勝利への揺るぎない決意と熱い情熱を失わず、

終了を告げるサイレンが鳴り響くまで、

チームと自己の可能性に挑戦し続け、

悔いを残さないよう、思いっきり、戦ってきてください。

全校生徒、先生方、保護者の皆さん、そして、学校関係者や地域の方々は、みなさんを、最後まで、心から、応援しています。

健闘を祈ります。